

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成28年11月10日 (木)

■福祉サービス事業者情報

名 称	はあと保育園	種 別	保育所
代表者氏名	園長 柴田 真宏	開設年月日	平成26年4月1日
設 置 者	社会福祉法人 青藍会	定員	60人
所 在 地	山口市小郡平成町1-20		
電 話 番 号	083-976-2460	FAX番号	083-976-2477
ホームページアドレス	http://www.seirankai.or.jp/topics/heart/		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

・新しくデザイン化された園舎内外は、子どもからの視点を重視した自然とのふれあいやささまざまな遊びの工夫がしやすい構造となっており、園全体が学びの場となり、自由な発想での遊具の機能を果たすなど、子どもたち一人ひとりが自ら考え、工夫をして遊ぶ空間と化している。

・法人が設置している関連事業所のある東京都の「世田谷区保育の質ガイドライン(チェック表)」を活用した自己評価を毎月実施しており、福祉サービスの向上に向けた取組が組織的に行われている。開園2年目で、職員の「明日も来たい」と思ってもらえる保育園にしたいという情熱が伝わってくる。

・毎月実施されているクッキングが体験できる場づくりや、調理室が見えるランチルームの活用により、栄養士がランチルームに出て気軽に子どもと関わるようにしているなど、食べることへの感謝を育む工夫された食育を実施している。

・子育て支援室による地域への開放、子育ての悩み等に応じているはあと相談、子育て家庭との交流行事OYA塾など、地域の子育て家庭がさまざまに利用できる子育て支援サービスを積極的に実施している。

◇改善を求められる点

・園の方向性を形づくる上で重要な中長期計画の策定とそれに基づく単年度ごとの事業計画を策定していただきたい。その際、現場職員の声を積極的に取り入れ、さらなる保育サービスの充実に生かしていただきたい。年度毎の事業に対しては、職員それぞれの課題を、自らが評価し、互いに助言し合い、相談する機会を持つことで、保育士としてのスキルアップにつながると思われる。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

はあと保育園の運営を第三者の方に評価していただくことで、自園の優れている点と改善すべき点が明確になりました。今後は、さらなる改善と優れた点を伸長することで、子どもの個性を尊重し、自然と共生する豊かな経験を通じて、健やかに成長できる保育園にしたいと思えます。

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	4	b	1	c	4	Na
<p>法人の理念と共に、園の理念が、ホームページやパンフレット、広報誌に明記され広く周知するよう取り組まれており、職員ハンドブックには、法人の理念、職員の十訓、職員心得が記載され、園として理念等の浸透に対する強い思いが汲み取れた。経営状況等把握については、市の保育協会の理事会や総会に出席され保育の動向を把握されており、毎月、法人の役員と業績診断を実施するなど、経営課題を明らかにされていることは評価できますが、理念や基本方針の実現に向けた中長期計画の策定や、それに基づく単年度の事業計画が策定されていませんでした。福祉サービスの質の向上については、「世田谷保育の質ガイドライン(チェック表)」を活用した自己評価を毎月実施されるなど、先駆的な組織としての取組は高く評価できる。</p>							

II 組織の運営管理	a	16	b	1	c	1	Na
<p>園長は、職員会議の中で、自らの役割や責任を職員に表明しておられ、毎日の施設内巡回は欠かさずことなく、送迎時の保護者との会話を大切にすることで、利用者の意向を把握するなど、福祉サービスの質の向上に指導力を発揮しておられる。職員の質の向上については、保育士の専門性を基に半期ごとの個人目標を設定し、月末には評価を行い、半期ごとに総合評価を行っている。法人の研修計画では、月1回の内部研修や専門性・関連性のある外部研修に、対象職員を参加させていることは評価できるが、職員一人ひとりに対する研修成果の評価・分析と次期研修計画への反映まではされていなかったため、次へのステップとして、期待したい。隣接のシニア住宅の住民との交流を始め、園庭や室内プレイルームの開放の実施、子育ての悩みに応じるはあと相談の開設、地域の子育て家庭も自由に参加できるOYA塾の開催など、地域に根差した子育て新サービスは、高く評価される。</p>							

III 適切な福祉サービスの実施	a	17	b	1	c	0	Na
<p>利用者を尊重したサービス提供については、内部での虐待防止の研修の他、NGアクション、NGワード、接遇チェックリストを活用され、園児一人ひとりの権利擁護を念頭に、職員間での確認を行っておられた。利用者満足の上では、年2回の試食会を設けた個人懇談の開催の他、送迎時や毎日の連絡帳、個人懇談等を活用し、極め細やかなコミュニケーションを図っておられ、保護者にとって意見を述べやすい環境を整えておられた。安心・安全な福祉サービスの提供については、施設安全チェックリストに基づいた安全点検を毎月実施しておられ、火災時や地震時、水害時、不審者からの避難訓練等を月替わりで実施しておられ、利用者の安全確保には、組織として熱心に取り組んでおられた。</p>							

IV 良質な個別サービスの実施	a	24	b	0	c	0	Na
<p>施設内は自然な採光や換気、保温、清潔等に配慮され、植栽を配した室内は、木製で優しい色使いをした家具や遊具が設置されており、子ども達が快適に過ごすことができるような環境が整備されている。園舎内外が日常的に植物や昆虫と身近にふれあえる環境にあつて、創造性あふれる玩具や遊具を用意して、子どもが自由に遊びを展開できるようにすると共に、ものを大切に扱う決め事やルール作りを身につけていけるよう配慮している。障害のある子どもの特性や状態に応じた対応として、発達相談や親子カンファレンスを行うなど、安心して生活できる環境が整備されている。月1～2回のクッキングの実施による食に関わる体験の場づくり、調理室が見えるランチルームの活用により食事を楽しむ雰囲気づくりをしている。昼食時、調理スタッフがランチルームに出て子どもと関わったり、行事食提供の際には、栄養士が子どもたちに説明をするなど、食育の大切さを取組は、高く評価できる。</p>							